

変わろうとしています。私たちの安全で安心した老後を得るためにも、退職教頭静朋会もこの波に乗るうではありませんか。そうすれば、自ら①及び②の重点を目指すことにもなるうかと考えます。

ここ数年、「静朋」にも個々の社会貢献が紹介されておりました。どれも心打たれる素晴らしい活動で、癒されたり、奮起させられたり、我が暮らしを顧みたりで、読む人に大きな影響を与えています。

具体的には、学校応援団あり、園芸活動あり、伝統文化継承、趣味の会の講師、自治会・老人会の仕事、交通安全の仕事挙げればきりがありませんが、これからという方には是非、私には何が出来るかな、これなら出来そうだというものを一つ見つけ、アタックしてみても如何でしょうか。

この活動は、会全体で組織的に実行するということは難しく、個々または小グループに委ねられるものかと思えます。先ずは動きだすこと、前向きに取り組んでみましょう。地域社会でのご活躍によって、退職教頭静朋会の存在を示していきます。あくまでも無理をしない、自分の歩幅で自分の速度で、という大前提のあることをお忘れなく。

各地区の組織拡大・活動の充実も平行して頑張っていくましよう。

島根県

中国地区理事会の報告 会長 森脇光彦

この会は毎年中国五県（鳥取県は退会）が輪番で開催されます。今年は島根県が担当でした。三月九日（水）、午前十一時から、サンラポーむらくもで開

催しました。岡山県、広島県、山口県、島根県から各県の会長他役員合計十人が集いました。

協議題は、①各県の活動状況、②中国地区退職教頭会の課題と取り組み、③その他でした。全体の進行は嘉儀副会長、協議題の司会は森脇が行いました。はじめに、広島県の山田喜久次会長が昨年十二月に急逝されました。黙祷を捧げご冥福をお祈りしました。山田先生は全国退職教頭会代議員会でも、リーダー的存在で、この退職教頭会の活動に尽されていきました。

次に、協議題の中心となる各県の活動状況で、共通した話題を報告します。

- ① 会員の高齢化、健康問題、物故者の増加等により会員が減少してきた
- ② 退職者の入会が少なくなった。
- ③ 会費収入が次第に減少して来た。
- ④ 叙位・叙勲の復活に努力しているが、未だに達成されていない。

次に、中国地区退職教頭会の課題と取り組みの中で、退職者の入会が各県とも少く、入会の勧誘に大変努力している。ある県では退職する人の情報が早くつかめるので、三月中に支部役員が、学校を訪問し勧誘するという。叙勲について、岡山県の要請活動が大変に参考になった。この方法を中国地区退職教頭会が一致して行う必要があると思った。



岡山県

生涯登りゆく賛歌

全国大会に参加して思うこと

会長 福岡 トキ子

秋晴れの日、高梁の松山城に登りました。二十代に登ってから四回目。前回の六十代の時は麓から登り、さらに後方の大松山に廻って「いいなあ」を連発しながら自然を堪能したものです。ところが今回は、二十分ばかりの道に杖をつき、石の段にやつらさと足を上げ、息も荒くなりました。どんなに若ぶつても体は正直、否でも高齢者であることを実感しました。



ところで、天守閣から景色を眺めながら今までの登山の思い出が、体を前に押し出していることに気がきました。高齢者には思い出の小箱が幾段にも重なっています。

特に私たちは、児童生徒・父母・同僚・地域の人たちとの思い出を沢山持っています。生涯続けられる「原動力を」です。

五月、静岡での全国代議員会に出席しました。駅から会場までの案内係さんの多いこと、迷いようもなく会場へ。久々にお会いする方との挨拶。お役の方々へのお礼など、会が始まる前のひとときが往路の疲れを癒してくれます。そうです。出席するだけで、思い出がまた一つ増えたのです。これからも、多くの思い出が加わって、登りゆく身のエネルギーとなると思うと、喜びすら感じます。生涯、賛歌です。

広島県

山田会長のご逝去を悼む

事務局長 藤原 幸治

「睦月の空に面影の雲を浮かべ、一月十八日、夫山田喜久次は、八七年の生涯を終え、安らかな旅路につきました。」

これは、故山田喜久次先生の葬儀の際の会葬お礼の挨拶の一部です。山田会長は、文字通り、私たち退職教頭会の先導者であると共に、会の行く末を最も真剣に考え、改革をされてこられた人でした。中でも昨年の組織改革は、三〇年の歴史の中でも特筆すべき出来事でした。格調高い挨拶や確固とした信念に基づく発言、細やかな配慮を持った助言など、その姿勢や行動力など尊敬と感謝の念を強く印象付けられました。

残された私たちは、山田先生の遺志を継ぐべく、共に支え合い、寄り添いながら精進していききたいと思えます。

第三十一回 県退教総会・研修会

「ぼらの街 福山の集い」ご案内

福山支部

陽春の候、会員の皆様には益々ご健勝にてご活躍のことと拝察いたします。

さて今年度の県総会・研修会は奇しくも福山市制百周年と期を同じくする、ここ福山支部が担当することとなりました。このことは、私達支部会員と致しまして、誠に大きな喜びであります。

県総心亭研修会では、本会の目的である会員の親睦・福祉増進及び教育の振興に改めて思いを致し、本

会が有意義な会となりますよう願っています。会員の皆様には、ご多用な日々をおすごしのこととは存じますが、今年は福山市民みなで百周年を祝う機運が盛り上がり、沢山の事業が計画されているこの機会に、各支部より未加入の方々も含め、一人でも多くのご参加をくださいますようご案内申し上げます。

山口県

会長あいさつ

会長 松岡 睦彦

今年は何年のように入梅となり、西日本各地、特に南九州地区において例年の三倍の雨量を記録したと、気象台が報じています。会員の皆様のお宅では、土砂崩れ等のご心配はございませんでしょうか。また、日々ご健勝にてお過ごしのことと存じます。

私事、会長が三年目となりますが、微力ながらできる限りの努力で会務を行っていきたく存じますので、皆様のご指導ご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

さて、昨年の山口県かなめ会親睦交流総会は、第二地区（柳井市）の担当で、十月十六日（木）～十七日（金）の両日、瀬戸内の穏やかな環境の柳井市「クルーズホテル」を会場として開催されました。第二地区会員皆様の「お持て成しの心」で、思い出に残る楽しく有意義なかなめ会となりました。改めまして、担当されました会員の皆様のご苦勞ご心配に對して、衷心よりお礼を申し上げます。

次に年が明けた三月十七日（火）、山口市湯田温泉「セントコア山口」において、中国地区公立学校

退職教頭会理事会が開催されました。平成二十六年度は、順番で山口県の当番となりましたので、会長、副会長二名、事務局長の四名で出席しました。各県の活動報告を兼ねた取組みに関する情報交換会、教頭経験者への叙位叙勲の要請活動については全国退職教頭会の陳情書を添えて要望すること、さらに親睦交流会など、中国地区では退職教頭会の未組織が鳥取県だけであり、世話人がおられないので組織結成が難しい状況にあるとのことなので、どうにか組織化を働きかけた旨の意見交換をしました。

二十七年五月二十二日（木）・二十三日（金）の両日、静岡市の「ホテルセンチュリー静岡」で、全国公立学校退職教頭会代議員会静岡大会が開かれて出席しました。その際、全国の退職教頭会の組織状況および各都県の活動と叙位叙勲の要請活動などについて、三時間三十分分にわたり熱のこもった協議がありました。東京都小・中、秋田から沖縄までの二十一都県が組織されており、二十六年度の会員は二、一八九人で、会員の多い山口県が三〇一人です。プ、ついで静岡県の二九九人となっています。

全国的課題は、未組織二十六道府県をどのようにして組織化していくか、関東地区や近畿地区の組織化について討議がなされました。叙勲の要請活動については、内閣府の総務部局、文科省、都道府県教育委員会、市町村教育委員会など、教頭の叙勲については積極的ではないなどの報告や状況討議が行われました。全国退職教頭会の陳情書を一緒に要望すること、もう少し積極的かつ強力に進めなければ効果は望めないことを強く発言して検討を促しました。

六月十一日（木）十時三十分から三十分間にわた